

2017年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録5限目》

《講座のメインテーマ》

防災の最新知見と 地域防災実践事例を学ぶ

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2017年11月9日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア



進行：増田佳恵さん

◆本日のテーマ◆ マンション防災の課題と実践活動報告

・前半：『集合住宅防災の課題』平塚市におけるアンケート調査等に基づいて

講師：森 慎一氏（元平塚市博物館学芸員、学術博士）

・後半：『女性は防災のスペシャリスト』誰でもできる家具の転倒防止

講師：庄子さち子氏、庄子健治氏、渡邊秀夫氏（戸塚区ハウスマンテナンス防災クラブ）



講師：森 慎一氏

《集合住宅の概要》（建築基準法：共同住宅と長屋が集合住宅）

- ◆集合住宅の割合：神奈川県＝58%、横浜市＝64%、平塚市＝46%
- ◆新耐震基準（1981年～）以前の共同住宅が残存：
築40年以上の高経年化が急増
- ◆住宅の耐震性（旧耐震の割合）：神奈川県＝21%（2013年）
- ◆《耐震診断・耐震補強の実施状況》
・2014年度調査/国交省
- ◆耐震診断実施状況：実施33.2%、未58.0%
- ◆診断結果：耐震性あり48.8%、耐震性なし32.6%、その他18.6%
- ◆耐震改修の実施：実施33.3%、実施予定なし19.0%

《集合住宅の防災設備》

- ◇非常用ハッチ：設置方法・使用方法等の確認を！
- ◇自動火災報知設備：報知器は2階鳴動方式
（8階が火災の場合、8階と9階のみ鳴動）
- ◇エレベーター：バッテリー装置が付いているか
- ◇貯水槽の断水時利用：受水槽の有効容量62t
（半日～1日分：水が腐る）、停電時の水運搬
- ◇防災倉庫：あり60%（平塚市30世帯以上集合住宅）
- ◇防災用品：初動時に使う備品を優先
- ◇非常用発電設備：あり29%、無し61%

《防災の問題点・・・アンケートから》

- ◇住民意識の向上：無関心が多過ぎる。
訓練の参加者が少な過ぎる。
- ◇コミュニケーション不足：住民同士の関係が希薄。
自治会未加入。
- ◇高齢化対策：高齢化が増加。要支援層も高齢化。
- ◇防災組織の編成：任期との関連で安定しない。
組織の形骸化。
- ◇エレベーター対策：停止時の避難方法の周知徹底。
- ◇要介護者支援：支援システムが不備。



講師：庄子さち子氏

《従来の防災講習会》

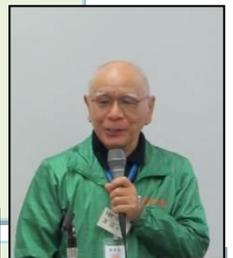
- ・内容が専門過ぎてつまらない、わからない。
- ・防災は救出・救助、男性の仕事で自分には関係ない。
- ・避難所の話ばかり。高齢者や女性の役割はない。
- ・話を聞いても身近ではなく、すぐに役に立たない。

《伝えたい防災講習会》

- ・防災とは災害が起こる前に行うもの。
- ・災害弱者を作らない、高齢者などにも防災を解り易く説明。
- ・防災は男性や特定の人・組織が行うものではない。
- ・主役は全員（大人から子供まで）。
- ・防災の基本は家庭にある。近所の助け合いが命を救う。
- ・防災で女性の果たす役割は想像以上に大きいという意識革命。
- ・誰でも出来る家具の転倒防止器具類を紹介。

「パッ！」と貼るだけの家具転倒防止器具紹介

家具転倒防止のデモ



講師：渡邊秀夫氏

《地震の怖さの正体は・・・》

○地震、備えることが命を守る：家の倒壊、家具の転倒、火、水。

《捨てるべき3か条》

- ◇私はできない→ みんな出来ることはある
- ◇誰かがやってくれる→ 自分の身を守るのは自分
- ◇ここは安全→ 安全なところは無い

《助かるための3か条》

- ◇繋がる→ 挨拶が基本、ご近所や地域を知っているのは女性
- ◇備える→ 備蓄は1週間～10日分、最悪を想像して最善をつくす
- ◇想像する→ 想像は女性の武器、防災イマジネーション

早川雅子さん



第5回アイスブレイク

《162世帯マンションの取組事例》

- ・8名で防災委員会をスタート
- ・耐震工事を実施し〇マークを取得
- ・あんしんカードの登録率80%
- ・J-DAGで発災直後の訓練実施